

2021年度

(令和3年度)

自己点検・自己評価報告書

厚生労働省の指針である「看護師養成所の教育活動に関する自己点検・自己評価指針作成検討会」報告書に基づき教職員を対象とした評価を2021年度も実施しましたので、以下にその結果を報告します。

I 目的

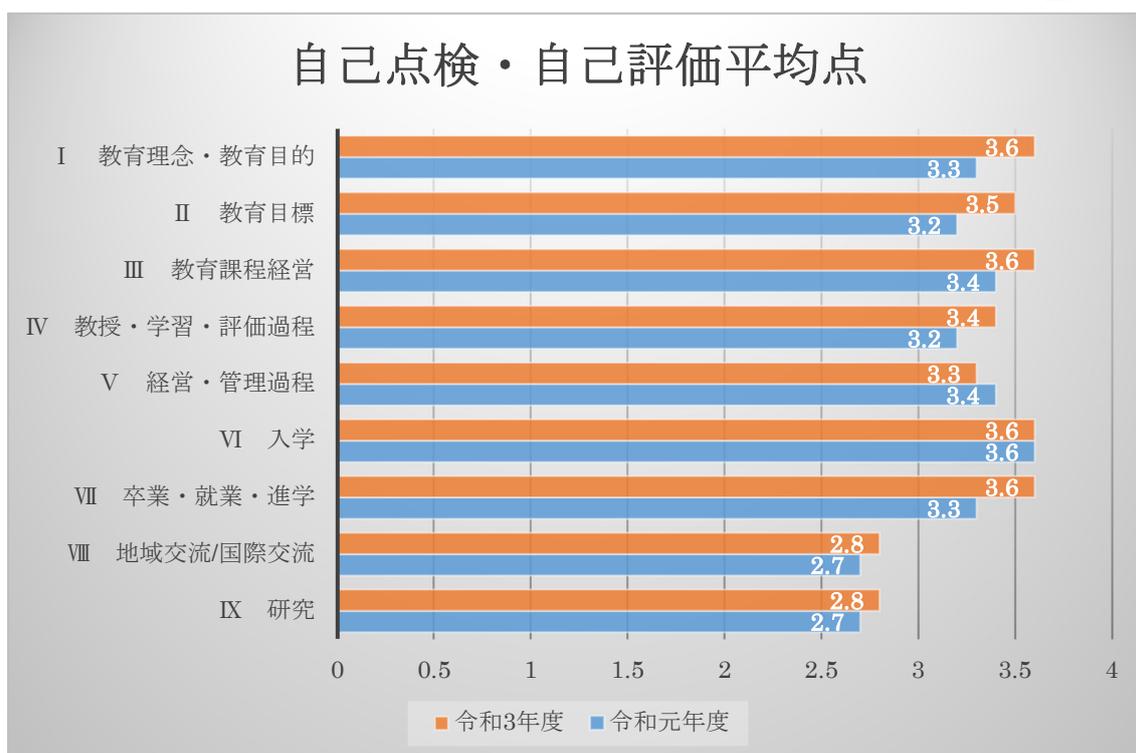
学校運営及び教育活動に対する自己点検・自己評価を継続的に行なうことで改善点を見出し、教育水準の維持・向上を目指すとともに、今後の学校運営に役立てることを目的とする。

II 評価結果

令和元年度の自己点検・自己評価は「看護師養成所自己点検・自己評価指針」に則り、教育理念・教育目的、目標の達成状況、教育課程運営、学生の学習支援、学校運営等について前回同様9カテゴリーの評価表に基づき実施しました。

評価は4段階の評価尺度を点数化し、「4. そう思う」「3. ややそう思う」「2. あまりそう思わない」「1. そう思わない」とし項目の平均点を示し、前回（平成元年度）と比較しました。（図1）

図1



前回との比較において、カテゴリーⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅶが上昇。カテゴリーⅧ・Ⅸが前回とほぼ変わりがなく、また平均点が3以下と改善策が必要と考えます。

令和元年度より取り組むべき重点課題として、「社会人基礎力を柱にした教育目標の再編をもとにカリキュラム改正のための準備・検討」「国際看護に対する教育支援」「研究活動の保障」をあげていました。以下それぞれのカテゴリーについて評価をしていきます。

I 教育理念・目的

教育理念・目的は前回よりも上昇しています。令和4年度カリキュラム改正に向け、見直しを行ったことから現状に対する問題意識の高まりと、教育理念の理解を教員全体で深めた結果が反映されていると考えます。当校の「生命を尊重し人間の可能性を信じる」という教育理念を軸として、学生にとっての学習指針となるように、より一層浸透させていきたいと考えます。

II 教育目標

教育目標は理念・目的との一貫性があり、教育目標をゴールに各学年の年次目標を示しています。育成すべき看護実践能力と学生の成長を促すため目標を明確にし、現行の卒後教育の考え方・新卒者の特性、さらに新型コロナウイルス感染症により臨地実習での経験が少ない中での影響等も考えながら具体的な指針を示していくことが必要になってくると考えます。

III 教育課程経営

教育理念・目的の達成に向けて職員全体が到達レベルを確認しながら活動を続けてきていると考えます。教員の教育・研究活動としては、令和3年度より新人教員が2名となったこと、また3年目教員の役割が増えていることもあり教員の専門性を発揮できる担当科目の配分と授業準備のための時間が取れる体制については、今後検討の必要があると考えます。また教員の自己研鑽、教員間での相互研鑽のシステムについて整っていると思わないという評価もあり課題があると考えます。教員一人ひとりが成長できるような環境を整えるためにどのようなシステム作りが必要か検討をしていきたいと考えます。学生の看護実践体験の保障については前回同様評価が高く、新型コロナウイルス感染症が拡大するなかでも臨地実習指導者と教員の協働体制、指導者と教員の役割の明確化でき臨地実習施設との連携をより発揮できてきたのではないかと考えます。実習基幹病院には当校の卒業生も多く実習指導に携わってくれており、その支援は非常に大きいものがあります。感染状況に合わせて臨地実習が実施できるよう環境を整えていくこと、また学内実習に切り替えた際の学習の工夫、学生の不利益にならないような学習の保障など検討を重ねていきたいと考えます。

IV 教授・学習・評価過程

令和4年度からのカリキュラム改正も見据え、教育課程と授業内容の一貫性、科目目標との整合性、看護学教育としての妥当性などの見直しは最大の課題とし取り組んできました。学生への単位認定のための評価基準についても明確に示すことができていると考えます。とくに新型コロナウイルス感染症拡大後はオンラインでの授業もあり通信障害などで学生に不利益ならないよう、その方法や公平性も保てるよう教員間での検討・確認も随時実施していきました。このような環境の中でも学習支援においては各学年担任・副担任が学習方法や目標を確認するなどしながら学習への動機づけ・支援を継続しています。

令和4年度に向けてはカリキュラム改正後の進捗の確認と学生に対しての効果的な教育・指導を行うために教員間で互いが教授すべき部分や進捗の確認など行いながら、教育内容の充実化を図り、学生に効果的な指導ができるように教員間の協力体制を再度確認していきたいと考えます。また社会人基礎力を養うために入学時から意識づけし、各年次終了時には評価到達状況を確認し個々の課題を明確にしています。3年間を通して社会人基礎力の向上を目指していけるよう教員間でも目標を明確にしていきたいと考えます。

V 経営・管理過程

校舎設備が老朽化しているため学習環境整備については、事務とも連携し財政状況を把握した上で必要な整備の検討を重ねていきます。また学習設備・備品を適切に取り扱い教員一人ひとりが現状を把握できるよう努めていきたいと考えます。

学生の支援については学生の生活・学修に関して全職員で情報共有をし、支援・協力体制を整えています。特にカウンセラーによる支援体制は重要であると考えます。カウンセラーに依頼する機会は増加傾向にあります。教員がカウンセリングの必要性など見極め、学生にとって必要なタイミングでカウンセリングを受けることが大きな意味をもたらすため、教員はカウンセラーと連携、情報共有しながら学生のメンタルヘルスサポートケアを図りたいと考えます。必要時には保護者とも適切に連携できるよう情報提供していききたいと考えます。

広報活動については教育の特徴や魅力を伝えるため、ホームページや学校案内のパンフレットなども見直しを図っています。コロナ禍でのオープンキャンパスでは当校の良さをPRするため開催方法や内容の工夫などは検討の余地があると考えます。

自己評価の体制については授業後・実習後アンケートを改善し、教員間で統一した自己評価をするよう努めていますが、授業実践にフィードバックできていない教員もあり、また評価体制について浸透できていないという評価もありました。改善が必要であると考えます。今回の自己点検・自己評価も踏まえ、教職員各々がどのように授業に反映していくか教育目標の維持・改善につなげ機能できるよう更に検討を重ねていききたいと考えます。

VI 入学

入学者状況・推移については分析・検証していますが、少子化問題、看護系大学の増加、十勝管内の看護学校新設立により学生の確保がより難しくなってくることが予測されます。当校の教育の特徴や魅力を伝えるための企業努力が必要であると考えます。広報については前述したように今後も各高校への訪問など継続して積極的に実施していきたいところです。

当校の設置目的に合わせ、地域におけるニーズを把握しながら指定校推薦制度についても検討を進め学生確保に取り組んでいきたいと考えます。

VII 卒業・就職・進学

令和3年度は学生の希望により保健師学校への進学が出来ました。今後も進学希望があれば学習支援をしていきたいと考えています。国家試験については3年間を通した支援体制を継続するとともに、模擬試験結果の分析をし、学生の弱い部分を強化していきます。卒業生の動向については看護部長会議等で情報交換を通して把握をしています。卒後4年目以降の退職率が高くなっている傾向にあるため、各病院と連携を取りながら地域看護への魅力を在学中から発信していきたいと考えます。また在学中から悩みを打ち明けられる環境を整え、卒業もサポートできる学校であることを示していきたいと考えます。

VIII. 地域社会・国際交流

前回同様低い評価となりました。国際看護に関しては、科目立てしておらず看護学概論や災害看護の中で国際的な取り組みを教授しています。当校は地域における基幹病院としての役割を担う看護師育成を目指しており、高齢化社会の進行や在宅看護への移行など社会状況に目を向けられるような学習内容の検討を重ねていきたいと思えます。またコロナ禍において地域活動が制限されていますが、可能な限りの方法を模索し地域への関心を高めていきたいと考えます。

IX. 研究

研究活動の保障や時間の確保など今後も検討が必要であると考えます。研究活動の保障、助言・検討の体制についても課題は前回同様であると考えます。コロナ禍で研修への参加が減少している傾向にあるが、セミナー等へ参加した場合には教員間で知見が共有できるようにしていきたいと考えます。

【今後の課題】

令和4年度より取り組むべき重点課題としては、「カリキュラム改正後の進捗の確認と、教育内容の充実化」「自己評価体制を整え、授業実践にフィードバックできるような機能させる」「入学生の確保」「研修活動の保障や時間確保」であると考えます。中堅

教員が 2/3 以上となり、教員としての専門性を高めリーダーシップを発揮でき、後輩の育成を通して組織の発展に貢献できるよう意識づけをしていきたいと考えます。

また学生に対しての適格な評価ができるように各教員が自己研鑽に努めること、看護学教育、看護観、学生間など教育活動の指針を各自が明確にし、教育体制を充実させることで、学生の学習意欲が向上する環境を整備していきたいと考えます。

今後は入学生の確保が最大の課題となってくると考えますが、当校の学習環境や指導体制の良さを発信していけるよう教職員全員で課題を共有し取り組んでいきたいと考えます。